

人物登場

日本のアマチュア衛星「ふじ」は高度1500キロメートルの軌道を、順調に周回し続けている。完璧な打ち上げと「ふじ」の確実な作動に全世界のアマチュアから賞賛の声が湧いた。

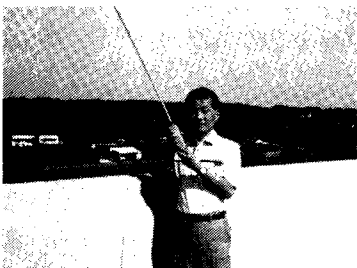
社団法人日本アマチュア無線連盟（原昌三会長）が主体となって、日本初のアマチュア衛星を作ったが、これは日本の大勢のアマチュアと業界各方面から1億円余の募金を集めて実現したもの。外国のアマチュア団体からの寄付もあったと聞く。

日本のアマチュア無線が数を誇るだけでなく、総力を結集したシンボルとして「ふじ」は、世界に日本の国際協力と高い技術レベルを強く印象づけた。

さて、ここで「ふじ」の製作に携った中のお1人にご登場いただくことにした。白子悟朗（しらこ・ごろう）さんがその人。アマチュア衛星委員会および中継器製作班のメンバーだが、白子さんの本職が日本電気（株）宇宙開発事業部の海洋観測衛星担当の部長であるところに注目いただきたい。つまり、人工衛星づくりのプロフェッショナルなのだ。

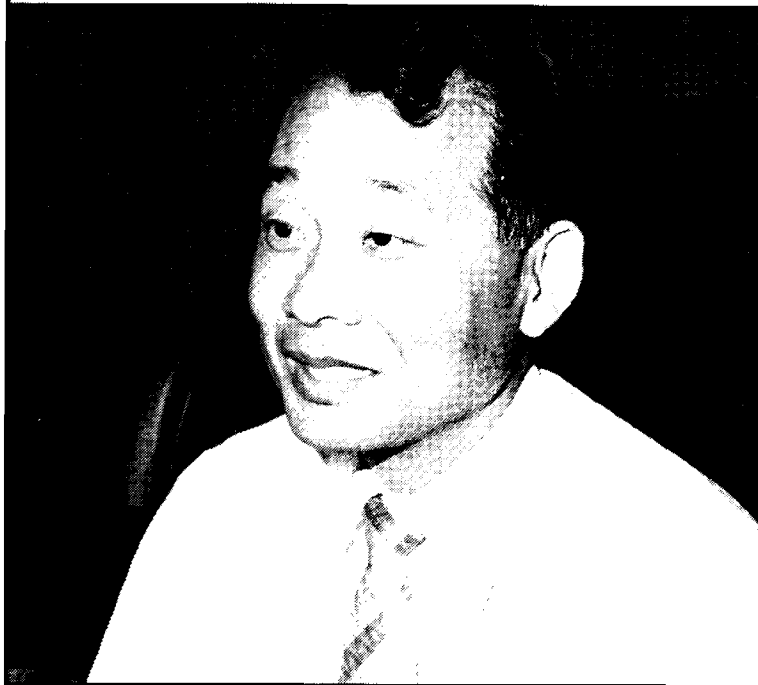
「ふじが上って、世界中のアマチュアに使われてよかった、実感です」と開口一番、かみしめるような一言。いま想起するのは、総理府・宇宙開発委員会の斎藤成文委員からいわれ

QRPトランシーブでオンエアする白子さん



宇宙通信を身近なものに 衛星づくりのプロ

JG1LDV 白子 悟朗



撮影／編集部

た「仕事でやる以上に責任が重いと思うが、がんばって欲しい。」だったという。

アマチュアの貴重な浄財を使って方が一の時は、後処理が大変だというのが、その理由である。

そして、アマチュア衛星委員会の前委員長森本重武さんから「プロの目でアマチュア衛星づくりに参加して欲しい」と要請され、誰でも持っている宇宙への夢をより身近なものとするプロジェクトに参加できることの意義、仕事と違った形でアイデアを生かせること、人間関係を広げたい考えもあってボランティアとして参加した。

一度打上げたら、手の届かないところを周回する衛星、中継器づくりにどんな苦勞があったのか伺ってみ

たら「技術的な経験にもとづくひらめきと枯れた技術との組み合わせが不可欠」と即座に返ってきた。

中継器班が作った基板をポッティング（固める）するのは自分しかない、ルーペでハンダ付を1点1点見ながら、プロの技術に基づいて実装などを見させてもらったと、あくまでも控え目であり、誠実な人柄がにじみ出ている。また、打ち上げ後は休日、夜間に時間を作っては運用管制局に向いてJARLの職員の皆さんと「ふじ」の健康状態を監視している。

来年1月に打上げる予定の海洋観測衛星MOS-1の成功に向けて、最後の段階と伺ったが成功を祈ってやまない。

昭和13年12月生れ、47歳。（恵）

28MHz帯モバイルハム関連の歩み

JG1LDV 1991-1. 1988-5 JG1LDV
 1986-6 白子 悟朗 編

年代	周期	主な出来事	備考
1928.	16	— J3CC梶井OM, VH5HG と28MHz で海外初QSO.	
1952.	18	— 我が国アマチュア無線再開.	
1967.	20	— 28MHz でアクティブな局がJARL-ATLASを結成.	
1968.		— ATLAS・・・伝播実験を実施.	
1970. 頃		— 28MHzSSBモバイル局出現. JA1IRY他数局.	28.600で運用
1974. 9 頃		— 28MHz エアーマービル伝播実験. JA1IRY, JG1LDV 他.	CQ誌74-11
1974. 頃		— 29MHzFM の実験始まる.	
1975. 春		— 28MHzSSBモバイル局運用が数十局になる. * JA1IRY, JH1QIB, JF1FAK, JG1LDV 他 * 西東京・・・28.480, JA1BAU, JA1CVF, JA1FUY 他 * 横浜付近・・・28.550, JF1ONU 他 * 全国・・・28.600→28.660→現在28.640. * 特徴・・・常にアクティブで内容のある交信	ミーティング開始.
1975. 5-9		— JA1BU/JG1LDV 種子島で運用.	
1975. 8		— 28MHzSSBモバイル局名録初版作成. (28局)	
1976. 9		— 同上 2版作成. (29局)	
1978. 6		— 山中湖ミーティング.	
1978. 7		— 福島ミーティング. JH1QIB, JA7EID 他	
1978. 7		— 28MHz クロス八木アンテナ実験.・・・JG1LDV	MH誌81-1
1979. 頃		— JG1LDV QRP運用開始. 入力1W. * AJD, WAJA, WAC 他 各種アワード獲得. * 太陽電池電源運用.	MH誌82-5
1979. 1	21	— 28MHz 半波長モバイルアンテナを実用化. * JA1BU, JG1LDV.	MH誌79-1
1979. 5		— W6IRT, 28MHz ビーコン局訪問. ・JG1LDV	MH誌79-8
1979. 6		— 第8回ミーティング(山中湖) 約50局 * 第1回アンテナ実験.・・・JG1LDV	MH誌79-9
1980. 6		— 第9回ミーティング(那須高原) 約50局	MH誌80-7表紙
1981. 6		— 第10回ミーティング(山中湖) 約50局	
1981.		— 29MHzFM レピータDX1SA運用開始.	
1981. 9		— アマチュア衛星打ち上げ準備委員会発足.	
1982. 6		— 第11回ミーティング(山中湖) 約60局 * 第2回アンテナ実験.・・・JA1CCQ, JG1LDV	MH誌82-11
1982. 8		— 偏波ダイバシティCQアンテナ実験. ・JG1LDV	
1982-12		— JH1QIB サイレントキー.	MH誌83-2
1983. 頃		— 28MHzCW/SSB レピータ実験開始.・・・JG1LDV	
1983. 3		— アマチュア衛星JAS-1開発開始.	JAS-1 ガイドブック
1983. 6		— 第12回ミーティング(山中湖) 約60局	
1984. 6		— 第13回ミーティング(山中湖) 約50局 * 3バンド半波長アンテナ.・・・JA1CCQ * タヌキ狩り * 28.640モバイルハム局名録. 約130局	MH誌84-8 MH誌84-10 MH誌88-12 JG1LDV編
1984. 10		— 28MHzCW/SSB レピータ小規模実験開始. JG1LDV	MH誌85-3
～現在に至る		— 入力: 28.640 / 出力: 28.740MHz, AM6.30~PM11.00	MH誌85-12
1985. 6		— 第14回ミーティング(青梅)	
1986. 1		— 新春ミーティング * JAS-1, 28MHzCW/SSB レピータ近況. ・JG1LDV * パケット通信.・・・JF1LZQ	
1986. 2		— 29MHzFM レピータ小笠原に設置.	現在3局運用
1986. 5		— 28MHz 2Wハンディ+半波長ロッドアンテナで種子島よりQRV.・・・JG1LDV	CQ誌86-9
1986. 6		— 第15回ミーティング(清里)	
1986. 8		— JAS-1打ち上げ(1990-2. JAS-1b打ち上げ)	
1987. 6~	22	— 第16~19回ミーティング(清里)	MH誌88~90-
1990. 6		— * ラジアルレス垂直アンテナ.・・・JA1BU, JA1JJV	MH誌90-3